想辺

みやこ町
町勢要覧
2018

みやこ町
町勢要覧
2018

想遥

Contents 目次

祓川の清流に、四季の花に心も洗われて …… 04
・写真で感じる！みやこ町の四季

感動　みやこ・四季折々のまつり …… 06
・春夏秋冬　みやこ町のイベント

安心して子育てできる環境 …… 08
・インタビュー「子育て支援制度は強い味方」田村 理美さん

住めばみやこ！ …… 10
・絵で見るみやこ町定住あれこれ

元気で、自分らしく！長寿のまちを目指して …… 12
・福祉事業の紹介

みやこ町のとっておきを味わう。愉しむ。 …… 14
・インタビュー「農業、はじめました。」永田 健一さん

自然のうま味！！みやこ肉 …… 16
・インタビュー「安全安心なジビエ肉を」山本 倫明さん

先人が遺した想いをひとつに …… 18
・リニューアルした博物館

文化遺産は語る …… 20
・みやこ町に遺る文化財

まつりを彩る「神人和楽」の民俗芸能 …… 22
・「豊前神楽」を護り伝えるみやこ町の神楽
・座談会「神楽を未来につたえるために」
・インタビュー　原田 和希さん

わたしたちが未来を創る …… 26
・県営伊良原ダム/みやこ豊津IC/平成筑豊鉄道

わたしたちが未来を創り　人と自然が輝きつづけるみやこ町 …… 28
・第2次総合計画

これからも「住み良いみやこ町」を目指して …… 32
・行政と議会
・ごあいさつ

みやこ町みどころMAP …… 34

こどもと一緒にでかけよう！

川の流れに誘われて歩けば、出会いが待っていた。

「大きくなったね」

彼女はこたえる。

「あそこでかくれんぼしようよ！」

彼女が大きな声を出したその先には、歴史を感じる公園が。
きっと古から人々の温かい想いに溢れ、
優しさに抱かれている場所なのだろう。

「以前もこんなことがあったような気が…」

それは、自分自身の記憶なのか、
ついこの前のことなのか。
思い出すにはもう少しだけ時間がかかりそうだ。

秋

鐙畑の棚田
伊良原ダム　紅葉
長寿の里公園　紅葉
野峠九州自然歩道
崎山のひまわり

上伊良原の紅葉

崎山のひまわり

春

仲哀公園の桜
千女房桜
八景山自然公園の桜
本庄池の桜
花菖蒲公園
馬落し渓谷のフジ

仲哀公園の桜と町内の眺望

祓川の清流に、四季の花に心も洗われて

雪の障子ヶ岳

冬

雪の障子ヶ岳　初日の出
冬の蛇渕の滝
豊前国分寺跡公園　三重塔　雪景色

蛇渕の滝

夏

伊良原･帆柱渓谷のシャクナゲ
清流の郷　帆柱　蛇渕キャンプ場
ほたるの里公園

感動 みやこ・四季折々のまつり

春

- **3月** ▸林酒造蔵開き　新酒まつり
- **4月** ▸大原八幡神社「獅子舞」
  ▸さわやかマラソン大会
  ▸千女房桜祭り・千本桜街道まつり
  ▸たけのこ祭
- **4・5月** ▸神楽奉納
- **5月** ▸胸の観音　春季大祭
  ▸生立八幡宮神幸祭
  ▸ホタル観賞の夕べ

林酒造蔵開き　新酒まつり

京築地域で唯一の造り酒屋である「林龍平酒造場」は、創業天保8（1837）年と長きに渡り、その風土・気候を生かした製法にこだわり、その代表銘柄である「九州菊」は、町内のみならず、県内外まで親しまれています。毎年3月初旬には蔵開きが行われ、多くの来場者がその年の新酒の味わいを楽しんでいます。

夏

- **6月** ▸花しょうぶまつり
- **7月** ▸吉原古城生誕祭（犀川内垣）
  ▸犀川駅前ビアガーデン
- **8月** ▸夏まつり・花火大会

みやこ町夏まつり・花火大会

8月中旬、サン・グレートみやこ前にて開催され、太鼓の演奏、盆踊り等が披露されます。会場には露店が並び、夜には花火大会があります。

秋

- **9月** ▸スポーツフェスタIN みやこ
- **10月** ▸陸上競技大会（白川力記念）
  ▸太鼓フェスタ in みやこ
  ▸おらが町に来て見てギャラリー（犀川全域）
  ▸崎山ひまわり祭
  ▸伊良とぴあ祭
  ▸円座餅つき（犀川木井馬場）
  ▸産業祭（よってこ犀祭 in みやこ）
- **11月**

みやこ町産業祭（よってこ犀祭 in みやこ）

11月中旬、犀川支所前にて開催されています。例年40程度の出店がならび、また体育館ではフリーマーケットが開かれています。

冬

- **12月** ▸愛郷音楽祭
- **1月** ▸成人式
  ▸消防出初式
- **2月** ▸豊前国分寺三重塔まつり

みやこ町愛郷音楽祭

みやこ町出身の音楽家里見義と高橋信夫の功績を称え、平成9年から始まりました。
音楽祭では、第一線で活躍している東京藝術大学OBによる演奏や町民参加の合唱、神楽オペラなどの趣向を凝らしたステージを楽しむことができます。

生立八幡神社山笠（5月）

「犀川神事」とも呼ばれ、京都平野でも指折りのお祭りとして知られます。起源は生立八幡宮が創建された養老7（723）年のころからとされ、8基の山笠が御神輿に随行して神社前の馬場を移動します。山笠をギシギシと軋ませて担ぎあげる姿は「力の奉納」と呼ぶに相応しい勇壮な祭りです。

安心して子育てできる環境

みやこ町の「宝」それはなんと言っても子どもたち。子どもたちがすくすく育つ町。その子どもたちが、まちを支え、未来を創っていく…。それが「みやこスタイル」のまちづくりです。

地域の人が差し伸べるたくさんの温かい「手」。だから、「みやこ」で育てたい…。

子育て支援は、子どもが生まれる前から始まっています。町では、妊婦健診の助成はもちろん、保健師や助産師による訪問や相談の開催によって妊娠中から心身を整える支援をしています。さらに、子育ての悩みを抱える保護者への支援として、さまざまな悩みの相談がしやすい環境を整えています。

また、町内に3つある子育て支援センター（なかよしキッズ・バンビーノ・ぴよぴよキッズ）では、子育て中の親子が安心して過ごせる遊び場や、子育て交流を通して悩みを相談する場を提供しています。子どもを生み育て、安心して働けるような子育て環境を整えていきます。

小中一貫教育校「みやこ伊良原学園」

みやこ伊良原学園は、県営伊良原ダムの建設に伴い、平成28年に新校舎を建設し、移転開校しました。学園は9年間の継続性を生かした小中一貫教育で、小学校の高学年では中学校教師による専科授業も一部の教科で行ったり、中学生の授業では小学校教師が入り複数での指導を行ったりしています。ほとんどの学校行事を小中合同で行ったり、合同で給食を食べたりするなど、小学校と中学校の壁をなくして小中学生が仲良く学校生活を送っています。なお、校舎の設計は世界的建築家の安藤忠雄さんの手によるものです。

放課後児童クラブ

町には5つの児童クラブと特学児童クラブがあります。放課後児童クラブでは、親が仕事等で昼間家庭にいない小学生を預かり、家庭との連携を図りつつ、遊びや生活を支援することを通して子どもたちの自主性、社会性、創造性を培うなど、児童の健全育成を図っています。

子どもたちの元気な笑い声に支えられています

悠心（ゆうしん）くん(5)　理美さん　陽翔（はると）くん(3)　楓愛（ふうあ）ちゃん(1)　義樹（よしき）くん(11)　宏哉さん

01 interview 田村 理美さん

「子ども医療費支給制度は子育て家族にとって家計の強い味方」

4人の子育てに奮闘する田村宏哉さん、理美さんご夫妻。子育て環境の整った「みやこ町の良さを実感している」といいます。

理美さんは、

「結婚後に夫の住むみやこ町に移りました。実家は行橋市ですが、みやこ町はのどかで、人のふれあいを感じることのできるまちです。ここ勝山黒田地区はご年配の方も多いところですが、子どもたちも生まれて交流も広がり、皆さんが温かく子どもたちを見守ってくれています。」

宏哉さんも、

「子育て支援制度も充実していて、安心して子どもたちを育てることができます。」

と話します。

認定こども園太陽の森に3人のお子さんを預けている理美さんは、同世代の子どもを持つお母さんたちとの「輪」も広がっています。

「育児の悩みや仕事との両立など多くの問題を話し合える仲間がいることは心強いです。また、子どもたちは最近病気をすることもなく、元気に通ってくれていますので、私も朝から仕事や子育てにと、充実した毎日を過ごしています。」

みやこ町の子ども医療費支給制度は子育て家族にとって家計の強い味方です。

「町の子ども医療費助成制度は3歳以下は無料で、上の子どもたちも自己負担は月に600円。また、対象が中学生から高校生世代まで拡大したことは4人の子どもを持つ母親にとっては医療費の面ではとても助かっています。また、インフルエンザ予防接種に掛かる費用の自己負担が1000円ほどで受けられることは家計を助けています。」

小学6年生になる長男義樹くんは、お風呂掃除や弟、妹の世話など、理美さんを助けています。

「義樹の日常を見ていて、成長を感じます。朝は食事の準備に、保育所送り、小学校見送りと結構バタバタしています。3人の子を太陽の森に預けてから出勤。4時には退社して長男の習い事の付き添い、その後は子どもたちのお迎えを済ませて、買い物などの用事を終えて、夜の食事づくり。夫が子どもたちをお風呂に入れてくれるのは大助かりです。」

と理美さん。日々時間に追われる毎日ですが4人の子どもたちの元気な笑い声が田村夫妻を応援しています。

インタビュー動画はこちらから

住めばみやこ！

近年、移住者が増え続けているみやこ町。理想の子育て環境と自然豊かなみやこ町。
ひとりでも多くの、新しい住民を迎えようと一生懸命に取り組んでいます。

「地方移住」という言葉は、「喧噪の都会から自然に囲まれた田舎暮らしへ」、といったことだけではありません。仕事や子育ての悩み、老後の不安を解消するため、あるいはこれまで温めてきた夢を実現するための手段なのです。

日本各地で直面する人口減少による地域の存続・活性化に関する諸問題への解決策として、東京一局集中を分散させる地方移住の取組が積極的に展開されています。

みやこ町では、春には仲哀公園や八景山自然公園で桜が咲き乱れ、5月下旬からは川の傍ではホタルが飛び交い、夏には清流の郷帆柱蛇渕キャンプ場から子どもたちの歓声が響きます。川のせせらぎや野を渡る風に癒され、うつろいゆく四季の情景に感動し、人とのつながりに心満たされるのは、みやこ町ならではの魅力です。

みやこ町では、定住促進住宅助成金や空き家バンク、定住促進結婚祝金、出産祝金など、みやこ町で暮らす方への支援を行っています。移住した多くの方がみやこ町の魅力として「住民のやさしさ・あたたかさ」「自然の豊かさ」「生活環境や子育て環境の良さ」を挙げています。あなたも、魅力あふれる「みやこ町」に住んでみませんか。

みやこ町空き家バンク

みやこ町では空き家を有効に活用することで、移住を促進し、あわせて地域間交流や、地域の振興と活性化をはかるため、「空き家バンク」制度を設けています。これは、空き家を貸したい、売りたいという方と、空き家を借りたい、買いたいという方の橋渡しを行うもので、いわば所有者と利用者の「お見合い」を促す制度です。

空き家バンクに登録した物件が成約し、一定の条件を満たした場合は、所有者に対し「空き家成約奨励金」を交付する制度もあります。

みやこ町定住促進住宅助成金

みやこ町で新築住宅または中古住宅を取得した転入者に、固定資産税相当額の助成金を交付しています。限度額は年10万円（助成期間最長3年間）になります。

※新築住宅で町内建築業者と請負契約した場合は、助成金額に5万円を加算。

国作団地

みやこ町国作の町有地を造成して住宅用地13区画を分譲し、販売。

絵で見る みやこ町 定住あれこれ

さく・え　GO係長

※　制度等の適用には、各種条件があります。詳しくは担当までお問い合わせください。

元気で、自分らしく！
長寿のまちを目指して

住民一人ひとりがお互いに助け合う活動を通じて、
心身ともに元気で、生きがいを持って暮らせる、
やさしいまちを目指します。

みやこ町豊津福祉センター　すどりの里

豊津福祉センター「すどりの里」は、地域住民一人ひとりの福祉と健康づくりの拠点として誕生しました。「ふれあいと交流」「保健」「リハビリ」「ボランティア」の4つのテーマがひとつになっています。

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に、活力ある生活を送り、一人ひとりが尊厳を維持し、安心して過ごせる社会を創造するために、町では様々な取り組みを行っています。

みやこ町の総人口は減少傾向を示している一方で、65歳以上の高齢者人口は年々増加し右肩上がりで推移しています。町では介護予防・重度化予防や高齢者の健康増進、社会参加の促進と地域ネットワークづくり、認知症支援施策の充実など、様々な高齢者福祉に対する課題があります。

町ではこれまで、3か年を1期として「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定しており、平成30年度からは、第7期を迎えます。「一人ひとりがいつまでも元気で、自分らしく生きられる長寿のまち」を基本理念に地域包括ケアシステム構築のための仕組みづくりや介護予防の推進と生活支援サービスの充実などの各種施策・事業の推進に取り組んでいます。

みやこ町老連スポーツ大会

みやこ町老連スポーツ大会（みやこ町老人クラブ連合会主催）は平成23年に第1回大会が開かれ、毎年10月に定期的に開催されている高齢者を対象としたスポーツ大会です。町内から200名を超える選手が11の競技に参加します。また、事前に「血圧測定」を行い、安全な運営に取り組んでいます。

公共交通（福祉）

みやこ町は町域面積が広く、特に中山間地域においては谷あいも深いため、日常の通勤や通院、買い物等には自家用車での移動が必要不可欠となっています。

その中で高齢者や障害をもつ方等、自動車の運転ができない人たちの移動手段の確保が重要な課題となっています。

町では、新たな公共交通施策として、自宅から町内の病院や公共・商業施設等へ利用できる「あいのりタクシー」の運行を犀川・勝山地域で開始し、全町域を目途に、順次拡大しています。

認知症サポーター養成講座

認知症はだれもがなりうる病気です。まずは他人事ではなく「自分のこと」として捉えることが大切です。

そこで、みやこ町では、認知症について偏見を持つことなく正しく理解して、認知症の方や家族に対し温かい目で見守る「応援者」を増やしていくことを目的に、認知症サポーター養成講座を開催しています。

現在、町内には、小中学生をはじめとする住民などが講座を受け、3,000名を超える多くの皆さんがサポーターとして登録しています。

高齢者社会参加促進事業（サロン☆パス事業）

高齢者の心身の衰えの要因に、外出回数の減少により体を動かす機会が少なくなることが挙げられます。

サロン☆パス事業は、サロンの参加実績に応じてポイントを付与し、貯まったポイントを商品券等と交換することで、高齢者の社会参画の拡充、拡大を図り、新たな仲間づくりや生きがい活動の場として介護予防及び地域づくりを推進します。

オレンジカフェ（よっちょいで!みやこ）

オレンジカフェは、参加者同士の自然な交流の中から、認知症に対して偏見のない地域づくりを目指して、定期開催しています。

運営や企画には、認知症サポーター養成講座等を受講した住民が「ほっとサポーター」としてボランティアで携わり、参加者はアットホームな雰囲気のなか、自由に好きな時間を過ごしています。参加料100円でコーヒーやお茶のおかわり自由です。また、カフェの一画では、専門職による介護相談や福祉用具の展示も行っています。

みやこ町のとっておきを味わう。愉しむ。

町内には犀川、豊津、勝山に3つの農産物直売所があります。
それぞれが特徴をもって、新鮮かつ安全・安心な農産物や加工品を提供し、消費者と生産者の交流の場、地産池消活動の拠点となっています。

02 interview 永田 健一さん

インタビュー動画はこちらから

農業、はじめました。

義父のハウスを引き継いでアスパラガス農家として野菜づくりを始めた永田さん。就農研修を終えて、本格的に農業に取り組んでいます。

「学校を卒業後は会社員として長期の単身赴任も経験しました。家族と一緒に生活したいという思いと、以前から抱いていた農業への憧れから、妻の実家のある「みやこ町」で農業をしようと考えました。」

農業に関しては全くの素人だったため、「みやこ町新規就農研修制度」を活用。平成27年7月から、㈲勝山町農業支援センターで農業の基礎から学びました。

「稲作や野菜の作り方や、農業機械の操作方法など、様々なことを教わりました。最初は苦労もしましたが、農作物を育てる楽しさを知り、自分の作った野菜などを子どもたちに食べてほしいと感じていました。」

研修終了後はアスパラガスを中心とした野菜づくりから稲作まで幅広く手掛けています。

「義父がアスパラガス栽培をしていたことから自然に始めることができました。最盛期には午前中に収穫・出荷を行い、午後からは茎の選別作業と休む暇はありません。まだまだ勉強することは多いです。」

永田さんは実家が農家で、土地や農業機械など就農条件には恵まれていたといいます。

「これから農業を目指す若い人たちに「みやこ町」に移り住んで、活気のあるまちにしてもらいたいと思います。就農は一見、ハードルが低そうに見えますが、農地確保や設備投資など苦労もあります。しかし、周囲の人たちが応援してくれます。早く地域にとけ込むことが大事ではないでしょうか。」

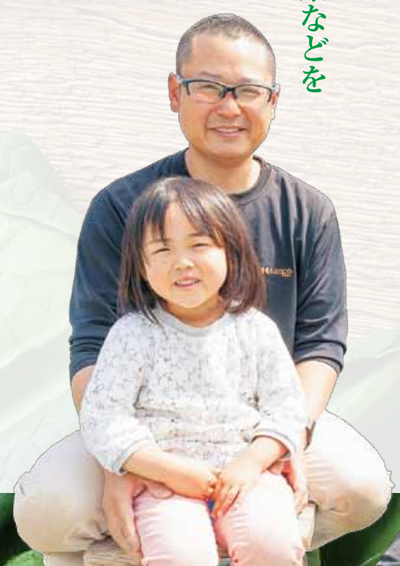
と話します。

今後の目標については、

「アスパラガス以外にも収益性のある野菜や特色のある作物にも挑戦したいと思っています。」

と将来を語ります。

子どもたちに、自分の作った野菜などを食べてもらいたいですね。



農林産物直売所「よってこ四季犀館」 犀川

よってこ四季犀館のテーマは「健康」です。犀川の恵まれた自然環境から採れる作物や加工品など約400種類を販売。農作物は「食の安全、安心」という現代のニーズに応えるため減農薬・減化学肥料栽培にも取り組んでいます。また、四季犀館ブログで地域住民による地元の情報を発信し、オンラインショップによるお米やみやこ肉（猪・鹿肉）、加工品の販売を行っています。
敷地内には、平成28年開業のうどん店「旬屋庵」があり、素うどん1杯250円の低価格に加え、地元産の旬の野菜の天ぷらが100円～と嬉しい値段設定。この他、おにぎりや食後のコーヒーもおすすめです。

施設概要

所在地
犀川生立54-1
取扱商品
採れたての新鮮野菜、犀川米、柳瀬ごぼう、いちご、なし、いちじくなどの摘みたての新鮮果実、地酒、季節限定オリジナルソフトクリーム、パン、お菓子、柚子こしょう、帆柱茶、蛇渕漬、味噌などの加工品
営業時間
8:00～18:00
休館日
1月1日～1月4日
駐車台数
普通車36台、大型車1台、身障者用有
トイレ
有（身障者用有）

豊津物産直売所「国府の郷」 豊津

みやこ町内や近隣から出荷される新鮮な野菜や花、加工品、工芸品等を販売。店内にぎっしり並んだ農産品は町内外合計490軒もの農家から出荷されたもの。それぞれ丹精込めて育てられた農産品は種類も豊富で、品質の良さと安さは折り紙付きです。
また、併設の「みやこ甘味舎」では、町内外で収穫された農作物の加工品やソフトクリーム、パンケーキ等のスイーツを用意しています。
週末には、手打ちそばなど様々なイベントを実施しています。

施設概要

所在地
国作464-1
取扱商品
三塔みそ、そらまめ、いちご、もも、いちじくのジャム、手づくりドレッシングなどの加工品、生花、手づくり工芸品
営業時間
8:00～18:00
休館日
1月1日～1月4日
駐車台数
普通車50台、大型車2台、身障者用有
トイレ
有（身障者用有）

採れたて市場「美夜古かつ山」 勝山

福岡京築農業協同組合が運営するスーパーマーケットと一体になった農産物直売所。「地産地消」をコンセプトに、朝採れ野菜、くだもの、米、生花、特産物を使った加工品を中心に販売しています。
おすすめは、平尾台のふもとの自然豊かな山々に囲まれ育てられた勝山米。また、自慢の米で作られた勝山味噌は、お土産として好適品。ねぎの産地としても知られ、香り豊かな青ネギ「勝山ねぎ」は県を代表する野菜のブランドになっています。施設内には、町内産の小麦を使ったパン屋や食堂も併設し、毎週土曜の激安青空市や毎月8がつく日の米の特価販売など、お得なイベントも実施しています。

施設概要

所在地
勝山箕田1302
取扱商品
勝山米、勝山味噌、勝山豆腐、勝山納豆「身土不二（しんどふじ）」、勝山ねぎ、旬の野菜、季節の果物、パン、みやこ町の加工品
営業時間
8:00～19:00
休館日
1月1日～1月4日
駐車台数
50台
トイレ
有

自然のうま味!! みやこ肉!!

ジビエ（Ｇｉｂｉｅｒ）とは、狩猟で捕獲した野生鳥獣の食肉を意味するフランス語で、ヨーロッパでは貴族の伝統料理として古くから発展してきた食文化です。

今注目のジビエ

平成22年から有害鳥獣（猪・鹿）による農作物の被害防止及び地域資源の活用を図るため、京築地域では初めてとなる有害鳥獣の加工施設を建設しました。

施設では、町内で獲れた猪や鹿をトレーサビリティや加工基準を定め、徹底した衛生管理のもと加工処理し、「みやこ肉」として全国に販売を展開しています。

栄養価が高く、味わい深い自然のうま味がたっぷりの「みやこ肉」は、町内の直売所や大手スーパーで販売されており、鍋料理や炭火焼きで食べるとやみつきになること間違いありません。

また、「みやこ肉」はカレーとの相性も抜群で、猪肉を柔らかくなるまで煮込んだ「猪カレー」、スパイスの風味を効かせた「鹿カレー」は町内の直売所で販売されています。

03 interview

山本 倫明さん
みやこ町有害鳥獣加工施設 施設長

インタビュー動画はこちらから

標準規格を定めて安全安心なジビエ肉を

みやこ町は町域の約7割を山林で占めており、豊かな自然に恵まれています。しかし昨今の環境の変化により、自然体系も大きく変わり、これまで山深くで生活していた猪や鹿、猿などの野生鳥獣が人間の生活領域まで出没し、それに伴い農作物等の被害も拡大してきました。

みやこ町では、これら有害鳥獣（猪・鹿）の被害防止と地域資源の活用を図るため平成22年4月に「みやこ町有害鳥獣加工施設（みやこ肉加工所）」を設置しました。

山本さんは開設時から施設長をつとめ、現在はふくおかジビエ流通促進協議会会長としても活躍しています。「免許は昭和50年、20歳代で取得しました。当時、父も狩猟をしていて、狩猟を行うことは自然の流れでした。しかし、山鳥などが主な対象であり、猪や鹿などが山里まで降りてくることはありませんでした。」

しかし、近年は中山間地域などにおいて、猪や鹿、猿などの野生鳥獣による被害が深刻化・広域化しています。「みやこ町でも被害が山里まで広がってきました。みやこ町有害鳥獣加工施設は、公的施設としては県下では添田町とともに初めて建設された施設になります。私は役場退職後に要請され、施設長となりましたが、食を扱うという責任を感じました。」

施設では年間150頭を超える猪や鹿が受入処理され、精肉としての「みやこ肉」のほか、「みやこ肉カレー」「みやこ肉ジャーキー」などが販売されています。現在、県下には公設の加工処理施設がみやこ町を含めて糸島市、宗像市、添田町の4か所あり、平成30年度には田川市、豊前市が稼働を開始します。平成29年度に公設獣肉処理加工施設や関係市町村等で構成する「ふくおかジビエ流通促進協議会」が設立され、精肉加工の標準規格を定めて、安全安心な「ふくおかジビエ」のブランド化に尽力しています。

平成29年に、山本さんは農林産物の被害防止に貢献したとして農林水産省農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門）を受賞しました。「昔は猪や鹿は山の奥に入り英彦山の麓まで行かないと出会うことはありませんでした。近年の自然環境・生活環境の変化が有害鳥獣被害を引き起こしている かも知れません。」と山本さんは話します。

先人が遺した想いをひとつに

みやこ町には豊前国府・国分寺跡をはじめとする数多くの史跡が遺されるほか、「小笠原文庫」に代表される近世・近代の貴重な文書資料や、神楽・山笠・楽打等の豊かな民俗芸能・行事が伝えられています。

みやこ町歴史民俗博物館は、郷土の歴史・民俗ゆかりの資料や、町出身で様々な分野で活躍した先人たちの足跡など、みやこ町が誇る文化遺産を一堂に会した展示・普及施設です。

平成6年にオープンし、京築地域では唯一の「登録博物館」として運営されてきましたが、平成26・27年に小宮豊隆記念展示室の新設等を目的に大規模リニューアルして現在に至ります。

新たに改装された「みやこ町歴史民俗博物館」はより一層、来る人に優しい施設をめざして、車椅子の方にも見やすいように、通常より展示ケースを低く設置したり、耳の不自由な方も楽しめるように映像資料に字幕を付けたりと様々な工夫をしています。

また、目の不自由なかたや、外国からの来館者に対応できるよう、新たに音声ガイドシステムを導入。日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語に対応しています。

さらに、ロビーに設置した150インチの巨大スクリーンには、史跡・文化財にまつわる20種類のプログラムを放映し、このプログラムの中には昔話もあり、子どもたちも楽しめる展示になっています。

エリア1 小宮豊隆記念展示室

夏目漱石の小説「三四郎」のモデルとなった町出身のドイツ文学者小宮豊隆の遺族から寄贈された数千冊の蔵書や資料は、全国屈指の漱石コレクション。この展示室はそれらの資料を紹介するもので、漱石からの手紙や書画のほか、友人であった芥川龍之介のサイン入り初版本等貴重な資料が並びます。

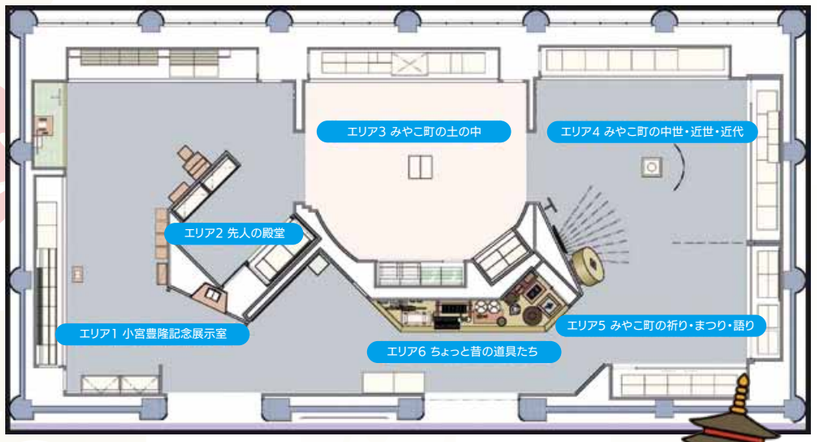
エリア3 みやこ町の土の中

古墳（橘塚古墳・綾塚古墳など）や、古代遺跡（豊前国府・国分寺）など、みやこ町内の遺跡から出土した多種・多彩な遺物の数々を展示しています。

エリア2 先人の殿堂

岩垂邦彦（NEC創業者）、堺利彦（日本社会主義運動の父）、鶴田知也（芥川賞作家）、葉山嘉樹（プロレタリア作家）、吉田学軒（元号「昭和」創案者）、吉田健作（日本製麻業の功労者）といった、みやこ町出身の先人を紹介しています。

▸展示コーナー案内図



エリア4 みやこ町の中世・近世・近代

町内各所に残る城館遺跡をはじめ、宇都宮氏ゆかりの資料や「小笠原文庫」資料等を通じ、みやこ町域の戦国末～明治までの歴史を概観します。

DATA みやこ町歴史民俗博物館

みやこ町豊津1122-13　☎0930-33-4666
http://www.town.miyako.lg.jp

エリア6 ちょっと昔の道具たち

明治時代から昭和時代にかけ、みやこ町で実際に使われていた生活道具を展示。今では探しても見つからない逸品も多数展示しています。

エリア5 みやこ町の祈り・まつり・語り

町内に残る豊かな自然の恵みを乞い願う「祈り・まつり・語り」の文化を、大きく「サト」と「ヤマ」に分けて紹介しています。

文化遺産は語る

過去と未来が交差する　悠久のとき

原始・古代から連綿と人々の営みが続いてきたみやこ町には、それぞれの時代に独特の文化が花開きました。今、それらの遺産を目にするとき、先人たちの知恵と工夫と努力、そして信仰の深さに感嘆せずにはいられません。

ここでは、古の「みやこ」を物語る町の貴重な文化遺産のうち、ふるさとの大地や人々の想いが募る場や施設に、今にその「かたち」を留める遺産の一部を紹介します。

史跡

【古墳・遺跡・霊場等】

①徳永川ノ上遺跡（徳永）
弥生時代中期～古墳時代初頭にかけての墳丘墓群。古代の「クニ」の王墓とみられている。

②彦徳甲塚古墳（彦徳）○
6世紀後半頃に造られた大型円墳。直径約24m・高さ7mほどで、二重の周溝を持つ。

③扇八幡古墳（勝山箕田）○
6世紀前半頃に造られた前方後円墳。全長58mで、後期古墳の特徴をよく留める。

④庄屋塚古墳（勝山黒田）●
6世紀半ば頃に造られた前方後円墳。現存長81mで、京都平野第3位の規模。

⑤甲塚方墳（国作）●
6世紀後半に造られた九州最大級の方墳で、京都平野を代表する首長墓の一つ。

⑥綾塚古墳（勝山黒田）◎
7世紀初め頃に造られた直径約40mの円墳。全長19mに及ぶ国内屈指の巨大石室を持つ。

⑦橘塚古墳（勝山黒田）◎
6世紀末頃に造られた39m×37m規模の方墳。綾塚古墳に次ぐ規模の巨大石室がある。

⑧菩提廃寺跡（勝山松田）○
8世紀頃に造られた古代山林寺院跡。山中に層塔や金堂とみられる建物等の礎石が残る。

⑨蔵持山修験道遺跡（犀川上高屋）●
10世紀の開山を伝える修験道の霊山。山中に行場や宿坊跡・石畳道等が残る。

【城跡・古墓】

⑩御所ケ谷神籠石（勝山大久保・犀川木山）◎
7世紀後半頃に築かれたとみられる古代山城跡。御所ケ岳山頂周辺を土塁や石塁が囲う。

⑪馬ケ岳城跡（犀川花熊）●
豊前地方北部における代表的拠点城郭遺跡。遺構とともに関係史料や伝承が良く残る。

⑫郡長正の墓（豊津）
明治初頭、会津藩再興のため育徳館へ留学し、悲運の死を遂げた少年藩士を悼む墓。

⑬豊前国分寺三重塔（国分）○
明治29年竣工の木造多層塔で総高23.5m。宝塔・層塔の折衷建築とされる。

⑭永沼家住宅（犀川帆柱）◎
天保12年竣工の庄屋住宅。帆柱村の庄屋を務めた永沼氏の邸宅で、詳細な普請記録が残る。

⑮黒門（豊津）
小倉藩再起の拠点となった藩校育徳館の校門と伝えられ、その風合いから黒門と呼ばれる。

⑯思永館（豊津）○
育徳館の後進・県立豊津中学校の講堂として、明治35年に竣工した木造洋風建築。

有形文化財

【建造物】

【彫刻・絵画】

⑰木造阿弥陀如来坐像（豊津・峯高寺）○
峯高寺の本尊で平安時代後期の造立とみられる阿弥陀像。胎内に明徳元年の修理銘が残る。

⑱木造僧形八幡神坐像（犀川生立・生立八幡宮）○
応永元年の胎内銘を持つ八幡神像。領主・西郷高頼が生立八幡宮に寄進した旨が記される。

⑲絹本着色當麻曼荼羅図（勝山大久保・曼荼羅寺）○
鎌倉時代に製作された曼荼羅で曼荼羅寺什物。切金や群青など当時の贅が尽された仏画。

【工芸・考古資料】

⑳金銅十一面観音懸仏（犀川上高屋・蔵持山神社）○
宝治元年奉納の金銅装懸仏。蔵持権現社（当時）・摂社・白山社の本地仏で、鏡板の直径38cm。

㉑銅製鰐口（犀川上高屋・蔵持山神社）○
蔵持権現社（当時）に奉納された鋳銅製鰐口。二点に室町期（宝徳・永享）の銘が残る。

㉒下田経塚出土品（勝山松田／みやこ町歴史民俗博物館寄託）●
12世紀半ば頃に営まれた経塚からの出土品。経筒や経文・容器（壺）からなる。

【歴史資料】

㉓小笠原文庫（豊津・育徳館高校錦陵同窓会）○
旧小倉藩主・小笠原家に伝来した家譜や藩政史料をはじめとする七千点余の古記録・資料群。このうちの朝鮮通信使易地聘礼記録はユネスコ「世界の記憶」登録資産。

㉔小宮豊隆資料（豊津・みやこ町歴史民俗博物館）●
夏目漱石の門人でどいつ文学者の小宮は、みやこ町の出身。漱石との深い交流の中で著作や書簡等膨大な資料を遺し、日本近代文学史上の貴重な資料となっている

※注　1.ここでは「文化遺産」の名で、指定または登録「文化財」を中心に歴史的遺産を紹介していますが、全てを紹介することができないため、代表的なものを紹介しています。また、本来「文化財」には天然記念物（自然遺産）も含まれますが、紙面の都合上割愛しています。登録文化財は全部で53件（平成30年4月現在）あり、その概要や個別の情報は「みやこ町文化財マップ」や「みやこ町デジタルミュージアム」に掲載しています。
2.本頁で紹介しているの文化遺産のうち、指定文化財については以下の印で表示しています。併せてご参考ください。
◎国指定文化財　○福岡県指定文化財　●みやこ町指定文化財

神楽は神々へ捧げる舞。
その舞いぶりを神が楽しみ、舞人が楽しみ、見る人が楽しむ。

まつりを彩る「神人和楽」の民俗芸能

みやこ町には数多くの民俗芸能が伝わります。
とりわけ神楽は多くの人々に親しまれ、
町内では、昔から多くの神楽団体が神楽を舞い、
舞人たちはその技を磨いてきました。
舞殿から響く太鼓や笛の音は
昔と変わらずに、心の中に響いてきます。
みやこ町の神楽は今もなお、
切磋琢磨を続け、その「技と心」を
未来へつなぐ営みをつづけています。

『豊前神楽（国指定重要無形民俗文化財）』を護り伝えるみやこ町の神楽

▲光冨神楽
光冨地区の産土神・徳矢神社に伝わる神楽。明治37年以前に赤幡神楽を伝受して始まったと伝えられています。徳矢神社の拝殿を舞台に奉納するのが慣わしです。

上高屋神楽▶
犀川上高屋地区の橘八幡神社で奉納される神楽。発足は、大正14年、蔵持神楽の当時の名人たちを招いて指導を受けたのが始まりとされています。

◀上伊良原神楽
犀川上伊良原地区の産土神・高木神社に伝わる神楽。明治29年の創始で、当時の太鼓が今も使用されています。犀川地区における神楽の源流とされ、今もその伝統を引き継いで舞われています。

鐙畑神楽▶
大正11年、犀川鐙畑地区の産土神・大山祇神社の神輿新調を記念して奉納されたことがはじまりです。昭和55年、鐙畑小学校の百周年記念行事で小学校児童に舞わせたことで神楽講が復活しました。

◀横瀬神楽
大正14年、上伊良原神楽を伝授して始まり、以来犀川木井馬場地区の木井神社御旅所、犀川横瀬地区の若宮八幡宮御旅所を舞台に舞われ続けています。

その他の民俗芸能

胸の観音

京都平野を一望する鹿ケ峰中腹の岩窟に所在し、その昔小松ケ池に棲む大蛇の毒によって亡くなった長者の娘を、観音の化身としてお祀りしたことが始まりとされています。もとは「峰の観音」と呼ばれていましたが、明治以降に胸の病にご利益がある観音様であるとして「胸の観音」と呼ばれるようになりました。5月（第2土・日曜日）には春季大祭も行われ、大勢の参拝客でにぎわいます。

豊国楽
（町指定無形民俗文化財）

犀川下伊良原の産土神、高木神社に奉納される華麗な雛児楽です。小倉祇園に奉納されていた田町楽が起源とされ、それが生立八幡宮へ、さらに文久2（1862）年に下伊良原村（当時）へと譲りわたされ現在に至ります。

黒田楽（にわとり楽）
（町指定無形民俗文化財）

勝山黒田地区の産土神・黒田神社に伝わる民俗芸能。豊前地方で「楽打（がくうち）」とよばれる太鼓芸能の一種で、元禄年間以降三百年以上もの間、受け継がれてきました。
打手が鶏の尾羽根を挿した冠物をつけるのが特徴です。

神楽を未来につたえるために

神楽の魅力は「一体感」と「地域に愛されていること」

京築地域を中心とした旧豊前国（福岡県北東部）では、今でも多くの神楽団体が地域の人たちの手により護られています。
みやこ町をはじめ、京築地域の神楽団体は、平成29年に「豊前神楽」として国の重要無形民俗文化財の指定を受け、伝統のある文化財として価値を高めました。
そして、明治時代から現代までの長きに渡りその文化・伝統を継承した5つの団体が神社の大祭などで神楽を奉納しています。
今回、5つの神楽団体から次代を担う若手の皆さんが参集し、神楽の魅力やこれからの神楽について話し合いました。

会　場／上伊良原　高木神社　社殿
出席者／上伊良原神楽保存会　**原田 和希** さん
上高屋神楽保存会　**吉田 学** さん・**大塚 淳** さん・**竹内 悠** さん
横瀬神楽講　**富永 成昭** さん
鐙畑神楽保存会　**荒尾 一昭** さん
光冨保存会　**森下 祐介** さん

―― 各神楽団体（講）の今についてお聞かせ下さい ――

幼い時から神楽を見て育ちました。神楽は身近で自然に舞いを覚えて、楽衆もできるようになりました。当時は多くの神楽仲間がいましたが、就職や結婚で地元を離れていったことは寂しいですね。

神楽に携わっている人達の地元神楽に対する愛着は深いものがあります。若者からお年寄りまでみんなに愛されているからこそ「これからも継承していかなければならない」という思いが生まれます。

全体的に少子化や講員の高齢化で神楽講の活動は厳しいものもありますが「自分の担っているものが次世代につながる」という思いで、団員全員が力をあわせて神楽を守っています。

神楽は舞手と楽衆（太鼓笛鉦）が一体となり、神楽を見る人の心を熱くさせます。私たちの神楽講は舞手の数は充分ですが、楽衆が不足していて、他の地域から応援をしてもらっています。今後も講員不足が出てくる神楽講もあると思いますが、旧来の集落の枠を越えた神楽奉納も必要かも知れませんね。

神楽の舞は式神楽（神祇舞）と特殊神楽（能舞）という演目で構成されていますが、祖父の時代に比べると演目（番数）の数は減っています。舞手と楽衆の減少が課題ですね。しっかり舞うことができない演目も増えています。

一方で、一時的に復活させた演目もあります。「湯立神楽」は高さ10メートルに及ぶ湯鉾（孟宗竹の柱）に鬼面の猿田彦命がよじ登り雲手を切り、天神を迎えるという神楽です。舞手にとても高い技術が必要な神楽で観客からも熱い声援が送られます。

指導や練習は奉納の1カ月前から集中的に行っています。他の地域では3カ月前から定期的に週一度という所もあるそうですが、仕事や学校の都合などで全員が集まることは少なくなっています。

これまで神楽の伝承は口伝によるもので、先人の舞を身振り、手振りで覚えて、練習を重ねてきました。現在では奉納の際の舞を「ビデオ」などに収録できて指導する側も受ける側も楽になったと思います。

鐙畑神楽保存会
荒尾 一昭 さん

上高屋神楽保存会
大塚 淳 さん

上高屋神楽保存会
吉田 学 さん

04 interview
原田 和希さん
上伊良原神楽保存会

インタビュー動画はこちらから

―― 将来の夢や構想 ――

上伊良原神楽保存会　原田さん

高校、大学在学中は、それまでやっていた神楽から離れていました。そんなとき、妹が神楽を続けていたことから神楽魂に火が付いて、帰郷後は再び、神楽を始めることになりました。生まれ育ったまちに神楽があることを誇りに思い、これからも仲間と神楽を継承していきたいと思います。

日々の練習は辛い面もありますが、奉納で神楽を見てくれた人からかけられる言葉に勇気をもらい、また、終わった後には達成感もあります。それが、神楽を続けて行く力になっています。

小学生の頃から、父や近所のお兄さんが神楽をやっていたことがきっかけで、子ども神楽に入りました。神楽を通じて、多くの人との出会いの機会が得られたことはよかったと思います。現在、町内の子ども神楽はほとんどありません。ぜひ、復活させたいですね。

舞手が楽衆に、楽衆が舞手にと、互いが息を合わせて神楽は作り上げられていきます。団員同士の絆を深め、絆が深まるほど一体感が生まれ、神楽を見てくれた人に感動が届けられると思います。

神楽の奉納は夕刻から深夜まで約4～5時間という長丁場です。体力や集中力も必要で、諸先輩方を見習って、数多くの演目をこなしたいと思います。

発表（披露）の場を増やして行くことも神楽団体の士気が高まると思います。これまでもいろいろな公演に各団体が出演してきました。今後も稽古を続けながら、多くの公演に出演したいと思います。

他県、他地域の神楽の視察や研修などを行い、交流を深めることも大切だと思います。宮崎県の「高千穂夜神楽（岩戸神楽）」を見ましたが、その華麗な舞、巧みな楽奏は町内が一つになって守り、育てていることだと感じました。

上高屋神楽保存会
竹内 悠 さん

横瀬神楽講
富永 成昭 さん

光冨保存会
森下 祐介 さん

みやこ町の神楽

みやこ町では現在5つの神楽団体が活動しています。最盛期には15もの神楽団体が活動をしていたといわれています。

みやこ町の神楽は、赤幡神楽の流れを汲むものとされ、光冨神楽を除き上伊良原神楽を主な伝承元として町内外の各地に広がりました。その源流とされる赤幡神楽は、岩戸見神社を中心とする旧築城郡十六社家に伝承されてきた神楽で、小倉小笠原藩主の氏神八坂神社の祭礼において旧京都郡社家神楽と隔年毎に奉納されていました。明治維新後、社家神楽が廃止されてのち旧豊前国内でいち早く復活した神楽の1つが赤幡神楽とされ、赤幡の氏子に伝承された神楽が古くから縁の深いみやこ町へもたらされたようです。

みやこ町では明治から大正にかけて、各地で氏子による神楽団体が次々に発足しましたが、戦後になって多くの団体が中断や存続の危機に陥りました。しかし、昭和40年代後半頃から、保存会組織などによる継承組織の改変を行う等して再生を果たし、現在に至っています。なお、みやこ町の神楽は春祭りでの奉納が中心となる春神楽で、豊築地域の秋神楽とは対照的という特徴があります。

今あるみやこ町の、その先を見つめて

わたしたちが未来を創る

ふるさとみやこ町が日本一元気な町になるために、東九州自動車道及び接続する交通網の整備や県営伊良原ダム及び周辺整備事業が進められています。みやこ町というキャンバスにあなたの未来を描いてみませんか。

02 みやこ豊津 IC

東九州自動車道は北九州市を起点とし大分県、宮崎県を経由し、鹿児島県鹿児島市に至る、延長約500kmの高速道路です。みやこ豊津インターチェンジ（呰見地区）は平成26年12月に供用を開始。これにより東九州自動車道のネットワークを活かした、人・モノの大量かつスピーディな移動が可能になりました。インターチェンジ開設は、今後も町の活性化に大きな力を発揮していきます。

03 平成筑豊鉄道

平成筑豊鉄道は、行橋市から直方市をつなぐ地域に密着したローカル鉄道です。

町内には崎山駅、犀川駅、東犀川三四郎駅、新豊津駅の4つの駅があり、それぞれ通勤や通学、買物等に利用され、地域の重要な交通拠点となっています。

また、平成31年3月から運行する観光列車は、地元食材を使用したコース料理やスイーツを車内で堪能。思い出に残る貴重な体験が出来ます。

駅を拠点に様々なイベントも開催しており、交通手段としてだけでなく、町内観光の拠点としても活躍しています。

ユータウン犀川（犀川駅）

動物のサイの形に似たユニークなデザインの駅舎。
2階のホールは様々なイベントにも対応できます。

整備されたダム周辺

ダム周辺には、ダム湖を望む展望台や散策路を備えた森林公園やレストラン兼直売所がオープン。各所には四季折々で映える樹木が目を引き、季節の移ろいが楽しめます。

01 県営伊良原ダム

伊良原ダムは犀川の伊良原地区、祓川の中流域に建設された県営ダムです。祓川は急流であるため、これまでに度々、決壊や氾濫、洪水を起こし、家屋の流出や農地の浸水などの被害を出してきました。一方で渇水による水不足も深刻な問題となっていました。そのため、福岡県では地元地権者6団体と建設に関する基本協定書を締結し、洪水調整や周辺の農業用水の確保、田川地区および北九州地方への水道水を確保することを目的とした県営伊良原ダム（多目的ダム）が建設されることとなりました。

平成2年度に国が事業採択し、平成30年3月に完成しました。重力式コンクリートダムで、ダム堤の高さ81.3m、長さ339m。総貯水量は2,870万㎥で、福岡ヤフオクドーム16杯分の貯水量を誇る県内で2番目の規模のダムになります。

わたしたちが未来を創り 人と自然が輝きつづける みやこ町

まちづくりは、行政だけでできるものではありません。人と自然が輝きつづけるために、住民をはじめ、企業、NPO等の組織、団体も含めて、お互いに連携し、まちづくりを進めていきます。

みやこ町では誰もが誇りを持ち、
この町に住んで良かったと思えるような
「日本一元気なまちづくり」を実現するために
「第2次みやこ町総合計画」を策定しました。
まちづくりの将来像を
『わたしたちが未来を創り　人と自然が輝きつづける　みやこ町』と定め、
5つの基本目標と2つの重点プロジェクトを設定し施策に取り組んでいます。

健康体操

Chapter 1 元気で安心して生活できるまちづくり

住民誰もが等しく生涯健康で自立した生活が送れるように支援します。また、人権を尊重することや、消防や防災・防犯体制の充実を図り、生活の安全・安心を確保します。

健康づくり出張講座や特定健診を実施するなど住民の健康寿命の延伸や高齢者の生きがいづくりを推進し、みんなで支え合う仕組みをつくります。また、介護予防・日常生活支援総合事業を構築することで要介護者・要支援者の低減に努め、介護サービスの質の確保と適正化を図ります。

一方、近年の自然災害の被害拡大を防止するための防災・減災対策に向けて、消防や救急体制の充実を図り、住民生活の安全・安心を確保します。

また、すべての住民がお互いの価値観・多様性を認め合い、その能力を発揮できる人権を尊重したまちづくりに取り組みます。

老人クラブ

出初式

伊良原ダム

Chapter 2 自然と共生し、快適で住みよいまちづくり

豊かな自然環境を守りながら、誰もが暮らしたいと思う魅力ある生活環境を形成します。また、情報通信基盤の活用や公共交通の充実を図り生活の利便性向上にも取り組みます。

みやこ町は山、川、田園など豊かな自然環境に恵まれている地域です。この美しい自然を守っていくために、住民と行政がともに協力・連携し、森林の保全や水資源の確保などに取り組んでいきます。

また、魅力ある生活環境を形成するため、国道等の幹線道路、生活道路の整備、快適な住宅環境づくりや、安全・強靭・持続可能な水道サービスの確保に努めます。情報基盤の充実を図るため、無料Wi-Fiスポットの整備を拡大します。また、路線バスや鉄道の利用を促進するとともに、あいのりタクシー等の運行による交通体系の充実に取り組みます。

黒田小田植え体験

分別収集・リサイクル

Chapter 3

産業と交流が盛んな活気あるまちづくり

農業の活性化や特産品を活かした産業の振興と創造を図ります。
また、観光振興を図り、山間部の交流エリアの環境を整備することにより交流を推進します。

農業の活性化に向けて担い手の確保・育成や農業生産基盤・生産体制の強化に取り組みます。また、勝山ねぎ・柳瀬ごぼう・河内たけのこなどのブランド化により、特産品を活かした魅力づくりを推進します。

東九州自動車道が開通したことにより町の産業拠点として価値が高まり、これまで以上に自動車部品関連の製造業の進出が見込まれます。

恵まれた自然や歴史文化資源を生かした観光振興を進め、伊良原・帆柱地区などの山間部の交流エリアの環境整備を推進し、移住・定住を促進することで様々な交流に取り組んでいきます。

直売所

立地企業

古墳めぐりツアー

Chapter 4

夢をもち、心豊かな人を育てるまちづくり

子どもの成長を見守り、支える、子育てしやすい環境を整備します。
また、図書館機能の充実やスポーツ・文化芸術活動を推進し、生涯学習環境の充実を図ります。

行政や地域が一体となり、子どもの成長を切れ目なく支える体制を整えます。また小中連携教育を推進し、キャリア教育などの時代を担う人材育成教育の充実を図ります。「いつでも・どこでも・だれでも」学ぶことができる学習機会を提供し、生涯学習環境の充実を図ります。さらに、図書館機能の充実やスポーツ・レクリエーション活動の推進、競技スポーツの振興を図ります。また、町内には数多くの史跡などの文化財を有しており、教育や地域振興に向けて遺跡・文化財の整備、活用を推進するとともに、歴史民俗博物館の事業振興と機能強化に努めます。

保育園フルーツ狩り

図書館読み聞かせ

アジャタ大会

中央図書館

Chapter 5

住民と行政がともに歩むまちづくり

住民の主体的なまちづくり活動を支援することで
「地域力」の向上を図り、住民と行政との協働を推進します。
また、効率的な行政経営、健全な財政運営に努めます。

本町では、これまで住民による主体的なまちづくり活動を推進するため、様々な支援を行ってきました。今後も住民と行政との協働を推進するため、積極的な行政情報の公開や住民の行政への参画機会を図ります。また、男女共同参画社会を築くため、推進月間を定め、啓発活動を推進します。

今後、多様化、高度化する住民ニーズに柔軟に対応できる体制を整備します。

公共施設の適正配置や、広域的な連携による事務効率化等を図ることにより、財源の確保と財政の健全化を推進します。

パソコン教室

ワークショップ

仲哀トンネル

Project 1　みやこ町重点プロジェクト

みんなで実践する「住民協働」まちづくりプロジェクト

国道201号・496号はともに、みやこ町の主要道路です。201号の未だに路線決定されていないみやこ町区間と496号の未整備区間の計画的な整備が進められるように関係機関に働きかけるとともに、沿線の産業ゾーン形成や住宅開発などを推進します。また、まちづくりの核となる組織や人材の育成・活用などを進め、住民参加による協働のまちづくりを推進します。

Project 2　みやこ町重点プロジェクト

住みたいと思える「まち」と「ひと」と「しごと」プロジェクト

「みやこ町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地域における安定した雇用の創出や結婚・出産・子育てについて切れ目のない支援を行います。また、人口減少社会に対応し、人の流れづくりに取り組むとともに、安全・安心なくらしを守り、地域と地域が連携するまちづくりを推進します。これにより、まち・ひと・しごと創生と好循環を確立し、人口減少に歯止めをかけ、まちの活性化を推進します。

これからも「住み良いみやこ町」を目指して

行政と議会

行政

地方の時代に、町民とともにつくるみやこ町。町民に開かれた行政を行います。

社会保障費の増加、少子高齢化による人口減少などが社会的な問題として懸念される中、効率的な行政運営を行い、必要な公共サービスを維持し、住民ニーズに柔軟に対応できる体制の整備を行います。

また、地方分権へ向けた社会変化への対応として、住民と行政が地域についてともに考え、実行する協働のまちづくりに必要性が高まっています。

協働のまちづくり推進のため、住民一人ひとりのまちづくりへの意識向上、住民自治組織の育成支援、地域リーダーの育成を行い、住民と行政が円滑に連携できるまちづくりの基盤整備を図っていきます。

議会

町民の皆様の声を町政に届け、みやこ町の未来を一緒に創り上げていきます。

みやこ町議会は、より良いまちづくりのために、町民の声を町政に反映する機関として町民の期待・信頼に応えるべく活動しています。議会は、年4回、3月・6月・9月・12月に開催される定例会と、必要に応じて開かれる臨時会とがあり、町長や議員から提出された議案や町民の皆さんから出された請願・陳情などを審議します。

また、議会には総務常任委員会、産業建設常任委員会、文教厚生常任委員会の3つの常任委員会と議会運営委員会のほかに、伊良原ダム対策特別委員会や基地対策特別委員会などの特別委員会があります。

平成29年12月の定例会から本会議はインターネットの映像配信で一般に公開されるようになり、誰にでも自由に視聴して、町議会活動や町政の方針を知ることができるようになりました。

議場は勝山本庁舎3階にあり、町役場内のテレビでも議会の様子を放映しています。

また、広報紙『みやこ町議会だより』は、平成18年5月の創刊以来、毎年4回発行され、議会における審議内容を町民の皆さんにお知らせしています。

ごあいさつ

みやこ町長　井上　幸春

みやこ町は新町施行から13年目となり、新たなスタートとして「第2次みやこ町総合計画」を策定し「わたしたちが未来を創り人と自然が輝きつづけるみやこ町」の実現に向けて全力で取り組んでいます。しかし、町は着実に発展を遂げる一方、少子高齢化や人口減少など、多くの課題が山積しています。

このような中にあっても、町民の声に耳を傾け、町民とともにスピード感を持って町政運営に努めているところです。

みやこ豊津インターチェンジ開設や県営伊良原ダムの完成など、みやこ町の持つ資源を活かしながら、地域活性化及び交流人口の促進を図るとともに、魅力ある施策を展開してまいります。

皆様には、この要覧を通じて、本町への理解と関心を深めていただくとともに、実際に本町にお越しいただき、美しい大自然と香り高い文化・歴史などの魅力に触れていただければ幸いです。

町民憲章

みやこ町は、緑豊かな自然環境と伝統ある歴史・文化をもつ町です。
わたしたちは、みやこ町民であることに誇りと責任をもち、
心豊かで住みよい町づくりをめざしてこの憲章を定めます。

一、自然を愛し、清い流れと緑豊かな美しい町をつくります。
一、郷土の歴史や伝統に学び、文化を守り育てる町をつくります。
一、スポーツに親しみ、健康で明るい町をつくります。
一、働くことに誇りをもち、産業を伸ばし活力ある町をつくります。
一、きまりを守り、互いに尊重し助け合って生きがいのある町をつくります。

町の花　さくら

桜の名所である仲哀公園・犀川公園（本庄池）・八景山自然公園の桜並木や、山桜の「千女房桜」をはじめとして、町内各所に桜が植えられており、春になると美しい花がわたしたちの目を楽しませてくれます。

町の木　もみじ

葉の移り変わりによる彩りに四季を感じさせる「もみじ」は、豊かな自然に恵まれたみやこ町のいたる所で見られます。初夏は新緑、秋は紅葉と色のコントラストがとてもすばらしく、自然美を代表するものです。

町の鳥　うぐいす

うぐいすは「春告鳥」とも呼ばれ、「ホーホケキョ」と大きく澄んだ鳴き声は人々の心を和ませ、清々しい気持ちにさせてくれます。みやこ町の野山にも多く生息し、公園や庭先でも鳴き声がよく聞かれます。

みやっこ君

みやこ町に伝承されている神楽の衣装を身にまとい、頭には福岡県の有形文化財に指定されている国分寺三重塔をモチーフにした帽子を被っています。老若男女に広く親しんでいただけるよう、ゆるキャラ風のデザインとなっています。

みやこ姫

みやこ姫はイラストレータの「しいたけ」さんがみやこ町のしょうぶの花をイメージして作ったみやこ町のキャラクターです。

みやこ町 みどころMAP

みやこ豊津ＩＣの開通により、さらに便利になったみやこ町。みどころも各地区に点在し、一日中楽しめることが魅力です。是非一度おいでください。

1 胸の観音

2 千女房のヤマザクラ

3 豊前国分寺三重塔

4 花菖蒲公園

5 思永館

6 犀川駅（ユークウン）

7 本庄池

8 崎山のひまわり

9 稲国の食 伊良原

10 清流の郷 帆柱蛇渕キャンプ場

アクセス

車をご利用の場合

▸東九州自動車道行橋ＩＣから車で約10分

行橋ＩＣから国道201号線を田川方面へ直進４ｋｍ。
左手に役場本庁。

▸田川方面新仲哀トンネルから車で約10分

新仲哀トンネルから国道201号線を行橋方面へ直進3.7ｋｍ。
右手に役場本庁。

▸北九州空港から東九州自動車道をご利用の場合

北九州空港から県道245号線を直進。
苅田北九州空港ＩＣから東九州自動車道へ。
行橋ＩＣで降り、国道201号線を田川方面へ直進４ｋｍ。
左手に役場本庁。

ＪＲ・バスをご利用の場合

▸ＪＲ小倉駅より電車とバスで約60分

小倉駅より日豊本線下り線で行橋駅へ。行橋駅前より太陽交通バス行橋・香春町線にて新勝山バス停まで。下車後、左手に役場本庁。

みやこ町 町勢要覧 2018 想辿

発行日　平成31年 2月

発　行　みやこ町

〒824-0892　福岡県京都郡みやこ町勝山上田960番地
電 話▸0930-32-2511　FAX▸0930-32-4563
URL▸http://www.town.miyako.lg.jp

制　作　株式会社 ぎょうせい 九州支社

印　刷　有限会社　京都印刷